

インフルエンザによる

12月後半頃より患者数が増加し始めたインフルエンザ。流行のピークは1月後半と思われませんが、今しばらくは注意が必要です。以前からインフルエンザ感染による異常行動が指摘されていましたが、

今冬も関連性は不明としながらも事故が相次いでいます。異常行動は10歳未満の子ども達に多くみられ、「意味不明の言葉を発したり」「突然走りだしたり」「マンションから飛び降りたり」などが報告されています。これらの行動は「熱せんもう」と言う現象で、薬の服用の有無に関わらず発生します。

厚生労働省の調査ではインフルエンザと診断された子ども、6〜7人にひとりは何らかの異常行動を経験しているようです。その発生率は発

熱当日か翌日に集中。また、女兒より男児に多く見られるとの報告があります。

寝ている間に恐怖の夢を見たあと目が覚めて、突然異常行動を起こすのが典型的なパターン。子どもがインフルエンザに感染したら、決して目を離さないことが大切です。



今年のは花粉は多め予想

花粉症の方は毎年この時期になると花粉の飛散が気になると思います。気象庁が発表した今年の予報は、九州地方は前年に比べやや多め予想。スギ花粉は2月後半から3月中旬、ヒノキ花粉は3月中旬から4月上旬頃になりますので、この時期はしっかりと

すぐにできる具体的な対策は以下の通り。

- ◆ マスク、眼鏡、帽子の着用。
- ◆ 花粉が付着しにくい素材の衣服の着用。
- ◆ 帰宅時に衣服や髪をよく払ってから入室する。
- ◆ 入室後はうがい、手洗い、洗顔をする。
- ◆ 風のある日は窓を閉めて、換気は短時間で済ませる。
- ◆ 洗濯物の外干しは避け、室内干しや乾燥機を使用する。
- ◆ こまめに掃除、特に窓際を念入りに掃除する。
- ◆ 空気清浄器を使用する。



病院で行う花粉症の薬物治療には、大きく分けて抗アレルギー薬とステロイド薬によるものがあります。抗アレルギー薬は即効性に欠けるため、花粉飛散開始の1〜2週間前からの服用が一般的。対策をしても症状が出て困った時は、受診してしっかり治療を受けて症状を改善しましょう。

### こどもの発熱の対処法

こどもはよく熱を出します。発熱だけで慌てることはありませんが、乳幼児は注意が必要です。3か月未満児は熱の高さに関わらず重症化しやすい。3歳未満児は39度以上なら重症の可能性がありますが、これらの場合はなるべく急いで受診してください。

## 野外で遊ぼう

### 近場のおひな様めぐり

梅の花がほころび始めると、ひな祭りの季節です。ひな祭りは平安時代頃が始まりと言われ、草木や和紙で作った人形に、災厄や病厄を移して川に流した行事が原形と言われます。

昔は病気で亡くなる人も多く、子ども達に健やかに育ってほしいとの願いから続いてきました。今は家庭でおひな様を飾るところは少ないようですが、この時期は各地でおひな様祭りが開催されています。子ども達を連れて出かけませんか。



柳川さげもん祭り

柳川のひな祭りと言えさげもん。縁起の良い鶴・亀や宝船などの小物を布で作って沢山さげるのがさげもん祭り。部屋の天井いっぱい飾られたさげもんは圧巻ですよ。御花や目野酒造などでの一般公開の他、初節句を迎える家庭などでも見ることができま。また、各種のイベントがたくさんありますので、情報チェックが欠かせませ



筑後・吉井おひな様祭り

江戸時代に宿場町として栄えた吉井町では、町内の旧家でおひな様巡りができます。ここのおひな様は「箱ひな」と「おきあげ」と呼ばれる人形が特徴。今時のはなやかさはありませんが、昔の風情が残るひな人形達です。

観光会館で土蔵マップと駐車場を確認して周ると迷わずに便利ですよ。

八女ぼんぼり祭り

ひな人形の生産地でもある八女市には、明治〜平成までの人気の人形たちが勢ぞろい。福島地区の民家や商店の百軒ほどで見ることができま。また、八女人形会館には徳川將軍の姫君が持参したひな人形があり、一度は見ておきたいひな人形です。おひな様パレードや供養祭なども開催されま。 (2月10日〜3月10日)

天領日田おひな様祭り

天領として九州一の繁栄を極めた日田市。旧家には京都屈指の人形師の作品も多く、目を見張るものがあります。おひな様巡りの中心は豆田町・隈町付近で、廣瀬資料館や草野本家などが見処です。白壁土蔵の町並みを散策しながら味処を探すのも楽